

令和2年度 第2回健康づくり支援部会 議事録

日 時：令和2年10月23日（金）19時50分～20時55分

場 所：市役所本庁舎10階 第3会議室

会議次第

- 1 開会
- 2 会議
 - (1) 前回、前々回会議の議事録（案）の確認
 - (2) 令和元年度 健康推進課決算について
 - (3) 令和元年度 保健事業について
 - (4) 第二期けんこう帯広21の進捗について
 - (5) その他
- 3 閉会

出席委員： 阿部厚憲委員、吉村典子委員、鳴海亮委員、古澤慎二委員、金須俊雄委員
川田真裕美専門委員、角谷巍啓専門委員、有岡秀専門委員、干場敦子専門委員

事務局： 野原健康推進課長、長谷川係長、横山主任

○事務局

皆さま、こんばんは。定刻となりましたので、令和2年度第2回健康づくり支援部会をはじめさせていただきます。

本日の委員の出席は、健康づくり支援部会、委員9名中、9名の出席をいただいております、出席人数が委員の過半数を超えていますことから、本日の部会は成立しております。

これより議事の進行につきましては、阿部部会長にお願いいたします。

○部会長

それでは、会議に入らせていただきます。

最初に前回、前々回会議の議事録（案）の確認についてを議題といたします。この議事録は、この場でご確認いただいた後、公開される予定となっております。議事録について、ご質問やご意見があればお願いします。

○委員

特にありません。

○部会長

質問がなければ、議事録についてはこれで了承されました。

次に、令和元年度、健康推進課決算についてを議題といたします。

○事務局

令和元年度、健康推進課決算の概要について、ご説明させていただきます。

総事業費は10億2,806万4,194円でございます。

内訳ですが、まず資料左側、「保健衛生総務費」は決算額3億1,366万8,949円となっております。

主な事業といたしましては、「保健衛生推進費」として、健康まつりの運営費の負担、難病連十勝支部の事業への補助、健康づくりガイド作成、AED貸借、心身障害者歯科治療費補助などのほか、「食・運動改善推進費」として、食生活改善推進員と健康づくり推進員の養成及び育成、各種教室の開催等、また、「公衆浴場対策費」として、市内の公衆浴場の確保と活性化のための各種事業への補助、ふれあい銭湯事業補助等を実施いたしました。

次に「訪問看護促進費」として、北海道総合在宅ケア事業団の会費、「健康増進センター管理費」として、大正と川西の健康増進センターの運営管理、「看護師等養成機関確保対策費」として、十勝管内19市町村で運営している高等看護学院の運営費分担金、市内に2箇所ある看護師養成機関に対する補助等、「帯広厚生病院運営費補助事業費」として、管内19市町村による帯広厚生病院の運営支援、すこやかネット事業、などを実施しました。

次に、資料中央の「予防費」につきましては、決算額5億2,628万4,971円となっております。

主な事業といたしまして、「がん検診、健康診査費」として、各種がん検診、肝炎ウイルス検診、市民健康診査、骨粗しょう検診等に要する経費など、「予防接種費」として、各種定期の予防接種費用、「感染症予防費」として、65歳以上の高齢者等及び中学3年生、高校3年生に対する季節性インフルエンザ予防接種、65歳以上5歳刻みの高齢者等に対する成人用肺炎球菌ワクチン予防接種、エキノコックス症検査を実施しております。また「結核予防費」として、結核検診、「健康相談費」として、保健師や栄養士などによる相談、「健康教育費」として、各種健康講座、スマートライフプロジェクトの推進を行いました。

また、「自殺対策事業」として、生きるを支える連携会議の開催や、総合相談会の実施、「訪問保健指導費」として、保健師の個別訪問による保健指導、などを実施しました。

次に、「夜間急病診療費」は、決算額1億4,745万5,442円でございます。

主な事業といたしましては、まず「休日夜間急病センター管理運営費」として、指定管理による休日夜間急病センターの管理運営を行っているものです。平成29年度から利用料金制が導入され、平成28年度までは市の歳入となっていた診察料は、指定管理者が収納し運用されております。

次に、「救急医療対策費」として、在宅当番、二次救急医療、休日歯科診療業務、急病テレホンセンターなどの運営の委託、小児救急医療の補助を行ったものです。

最後に「保健福祉センター費」は、決算額4,065万4,832円となっております。「保健福祉センター」の管理運営に要する費用でございます。

数字横の、矢印表記につきまして、前年度決算対比での増減を表しております。細い矢印の、5%未満の増減につきましては、前年度とほぼ同様のため、説明を割愛させていただきますが、太い矢印の5%~10%以上の増減につきまして、ご説明いたします。

まず、左側の「看護師等養成機関確保対策費」につきましては、6.3%の増となっております。こちらは、帯広高等看護学院の経費は、十勝圏複合事務組合への負担金としているものであり、組合の人件費の増等によるものとなっております。

次に一つ下の、帯広厚生病院運営費補助につきましては、約18.7%の増となっております。こちらは、病院の移転に伴い運営費補助の対象となる、病床数が増えたことにより、特別交付税単価の増により、補助上限額が増えたものです。

次に、中央、がん検診・健康診査費については、7.6%ほどの減となっております。こちらは、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、集団検診を3月より中止したことにより、受診者数が減ったことによるものです。

次に、予防接種費については、8.3%ほどの増となっております。こちらは、**日本脳炎ワクチン接種者数の増**などによるものです。

次に、感染症予防費については、6.4%ほどの減となっております。こちらは、**高齢者の肺炎球菌ワクチン接種者数の減**によるものです。

次に、結核予防費については、31%の減となっております。こちらは、先程がん検診・健康診査費についても、説明させていただきましたが、集団検診を3月より中止したことにより、受診者数が減ったことによるものです。

次に健康教育費については、10%の減となっております。こちらは、**リラクゼーション室廃止に伴い、リラクゼーション機器の賃貸料が無かったこと**によるものです。

次に自殺対策費については、110%の増となっております。こちらは、**中学1年生向けに作成した「SOSの出し方教室」に活用する教材の配布、及び関係機関・団体を対象とした多分野合同研修会の開催の増加**によるものです。

次に、右側の、休日夜間急病センター管理運営費につきましては、平成30年度はインフルエンザの流行による患者数の増加により、診療報酬が増えましたが、指定管理者が公益財団法人である性格上、運営において利潤が生じないよう、指定管理料の一部返還があり、令和元年度も返還額がありましたが少額であったため、前年度対比としては、大きく増加して見えるものです。

最後に、救急医療対策費については、6.8%の増となっております。こちらは、二次救急医療体制の確保のため医療機関において輪番制で行っておりますが、令和元年度は大型連休による休日の増や、支援病院の当番回数の増による委託料の増によるものとなっております。

以上、令和元年度決算の概要でございます。

○部会長

ただいま事務局の説明につきまして、何かご質問やご意見はございますか。

○委員

利用料金制とはどういったものですか。

○事務局

指定管理料と診療報酬を収入として運営すること。患者が増えた場合は収入が増えます。

○部会長

患者が増えようが、減少しようが、一昨年までは変わらなかったが、現在は（公財）休日夜間急病対策協会が指定管理者として運営しており、民間と同じ経営になっています。

○委員

今までとどう違うのですか。

○部会長

今までは患者の数にかかわらず、全ての市の財源でまかなわれていた。現在は診療報酬以外の人件費や管理運営の経費を市が負担しています。

○委員

厚生病院の補助費は、新築移転に関連するものですか。

○事務局

こちらは、病院の移転に伴い運営費補助の対象となる、病床数が増えたことにより、特別交付税単価の増により、補助上限額が増えたものです。

○部会長

医療機能が向上したため、額が増えました。

○委員

帯広市民だけが利用しているわけではないですが、増加した分を帯広市だけが負担しているのですか。

○事務局

二次救急医療の確保のため管内19市町村で支えていくものです。

○委員

帯広市はどのくらいの補助になっていますか？

○事務局

帯広市は7割の負担です。特別交付税の措置率に基づいた額です。

○部会長

質問がなければ、質疑を終了いたします。

次に、令和元年度、保健事業についてを議題とします。事務局から説明をお願いします。

○事務局

1 ページ目の「1、保健福祉センターの利用状況」をご覧ください。

事業等の利用状況であります。表の一番下に記載しています合計数の利用者の推移をご覧ください。平成30年度に比べ、令和元年度は利用件数で約14%、利用者数は、約1

8%の減となっております。主な要因につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた事業の中止等により、利用者数の減となっております。

各種相談の利用状況では、相談内容により、多少の増減はありますが、合計では、例年より352人の減となっております。

次に、「2、感染症などの予防」をご覧ください。予防接種の実施状況は、ご覧のとおりとなっております。結核検診の実施状況につきましては、X線検査の受診者数は、新型コロナウイルス感染症の影響より、3月に集団検診を中止したことにより減っております。

次に、2ページをご覧ください。成人用肺炎球菌予防接種は平成26年度10月に開始となり65歳以上5歳刻みの年齢の高齢者を対象に実施しています。対象年齢がわかりづらいこと等から、対象者へ個別に周知しています。実績は記載のとおりでございます。

インフルエンザ予防接種の状況ですが、中3、高3と65歳以上の高齢者等に対する接種事業を実施し、実績は記載のとおりとなっております。高齢者のインフルエンザにつきましては、高齢者人口の増により、対象者数、接種者数ともに年々増加傾向にあります。

エキノコックス症検診の実施状況については、小中学生については、ほぼ横ばい、一般については、平成29、30の2か年で見ると減少傾向でございますが、平成28年度と比べると、増加しております。

次に「3、生活習慣病の予防」の健康教育の実施状況では、実施回数は増加しておりますが参加人数が減少しております。介護予防サークルからの依頼が増えております。

健康づくり講座・教室につきましては、からだスッキリ講座、健康づくり教室は、事業の見直しや新型コロナウイルス感染症の影響による中止により実施回数と人数が減少しております。なお、この2つの事業に関しては、参加者が継続者に偏っており、新規参加者が少ないという現状と、年齢構成では65歳以上が86.4%を占めており、令和元年度をもって廃止しました。今後は地域の介護予防サークルや介護予防事業に誘導し健康づくりを推進します。

リラクゼーション事業につきましては、平成30年度をもって事業を終了としております。

特定健診特定保健指導対象者や糖尿病有所見者、健康づくり教室参加者を対象にした運動支援については、参加期間の短縮などの事業の見直しや、新型コロナウイルス感染症の影響による中止により実施回数と人数が減少しております。また、糖尿病重症化予防の保健指導につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、年度末にかけて面接・訪問を実施することができなかったため、実施人数が減少しております。乳がん子宮がんの講演会や講座につきましては、企業への周知により、実施回数、人数が増加しております。

健康相談については、新型コロナウイルス感染症に伴う健康相談が増加傾向となっております。

3ページをご覧ください。訪問指導につきましては、実訪問者数・延べ訪問者数ともに、ほぼ横ばいとなっております。

検診の実施状況であります。受診者数は、ご覧のとおりとなっております。がん検診については、前年度と比べると、受診率が減となっております。主な要因につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、3月の集団検診の中止等により、受診者数の減となっております。

35～39歳健診(市民健診)・健康診査の保健指導は、記載のとおりとなっております。検診・検査の実施状況、検診事後指導については、前年度と比べると実施数が減となっております。主な要因につきましては、病院受診をしていることが確認された方を受診勧奨の対象者から除外したことと、3月の集団検診の中止により受診者数が減少したためです。

4 ページをご覧ください。「4、自殺対策」につきましては、関係機関や団体等を対象に、相談者へのアプローチ方法や家族支援に関することをテーマに、多分野合同研修会を開催いたしました。また、若年層への対策として「SOSの出し方教室」において活用できるよう、ストレス対処方法や相談窓口を掲載している教材を作成し、市内中学1年生を対象に配布いたしました。

最後に、「5、救急医療体制に関する実施状況」であります。帯広市では、夜間・休日等における医療不安の解消と急病患者に対処するため、休日夜間急病センター運営事業や、医療機関の協力をいただき、在宅当番医制や二次救急医療体制を確立しております。利用状況等につきましては、ご覧のとおりです。このうち、急病テレホンセンター案内状況の合計では、1,391件が減少しておりますが、スマートフォンで医師会のホームページから情報を得ている方が多くなっていることが考えられます。

令和元年度保健事業についての説明は、以上でございます。

○部会長

ただいまの事務局の説明につきまして、何かご質問やご意見はございますか。

○委員

生活保護を受けている方の健診受診者が少ないのはケースワーカーからの受診勧奨があっても少ないのですか。

○事務局

生活保護の方は医療を受けている人が多いため少ないと考えられます。保健指導の数は、積極的支援・動機付け支援の対象者がそこからさらに絞られるため少ない状況です。

○部会長

予防接種を受けた人の人数はあるが、どのくらいの対象者でどのくらいの割合になっていきますか。

○事務局

それぞれの予防接種項目から、令和元年度末で四種混合が100.5%、二種混合が93.9%、麻しん風しんは89.4%、BCGは91.4%です。麻しん風しんは95%を目指しており啓発は強く実施している状況です。全国的には受診控えがあるが、帯広市は受けている方が多いです。

○委員

子宮頸がんワクチンを接種しないことにより4,000人患者が増える可能性があるという報道があったが、子宮頸がんワクチンに対してどのように考えていますか？

○事務局

接種開始当初に副反応があったということで、国は積極的な接種勧奨は控えています。しかし受けたい方への環境は整備されています。令和元年度は29人と接種者が少し増えているのは報道でワクチンの効果が伝えられていることが影響しているものと思われます。積極的な接種勧奨はしていないが、正しい知識の周知をしています。

○委員

費用が高くて、接種控えしてしまうのではないですか。

○事務局

受けたいという方で、対象年齢であれば定期接種扱いになります。

○部会長

副反応で、接種者が少なくなっているため、産婦人科学会も懸念しています。

○事務局

小学校6年生から高校1年生の女子は公費で受けられる体制になっています。

○委員

インフルエンザのワクチン接種は始まっていますか。

○事務局

始まっています。

○委員

1回接種でよいのですか。

○部会長

インフルエンザの型が変わってしまうので、1回接種でいいです。予防接種は重症化を防ぐことができます。

○委員

ゲートキーパー養成講座が平成29年から大きく減っているのはなぜですか。ゲートキーパーは養成した後どのような取組を行っていますか。

○事務局

平成29年度は民生委員といった大きい団体に対して行ったため多くなっています。平成30年度以降は、小さい対象者の団体に対して行っているため、平成29年度より少ない状況です。ゲートキーパーは何かをしなければならないというボランティアではなく、身近な人に声掛けをする人の事です。今年度は市役所の新規採用職員という若い方に実施しました。SOSの出し方教室など、困った時に自分から発信する力も養うために高校生を対象に行っています。中学1年生を対象に配布している教材は、自分から発信したり、友達が困っている時に声をかけたりといった目的で作成しました。

○部会長

質問がなければ、質疑を終了いたします。次に第2期けんこう帯広21の進捗について議題といたします。事務局から説明願います。

○事務局

資料3をご覧ください。第二期けんこう帯広21は、平成29年度に中間評価を行い、この部会において承認いただき、平成30年4月から改訂版の取組がスタートしております。

評価指標は重点の指標と、ライフステージ別の指標があり、毎年進捗を確認するものと、最終年度に確認するものがあります。

令和元年度の実績については、太線で囲んであり、ベースライン値からみて目標値に近づいているものを◎、離れているものを▼で示しています。

まず、重点の指標でございます。糖尿病の指標について、1の合併症（糖尿病性腎症による新規透析導入患者数）の人数については、3人で、目標に近づいております。糖尿病有病者、血糖コントロール不良者は女性は横ばいですが、男性は増えています。メタボリックシンドロームの該当者は男性、女性は共に増加傾向にあります。メタボリックシンドロームの予備群は男性は横ばいで推移し、女性はベースライン値より良い結果ですが、平成30年度と比べ若干増加していました。

特定健診の受診率は新型コロナウイルス感染拡大防止の影響で低下していますが、保健指導率は目標値には届かないものの年々増加しております。

がん対策における指標については、がん検診の受診率は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、前年度と比較して子宮頸がん以外のすべての検診で低下しております。しかし、子宮頸がん・乳がんについてはベースライン値からみて、目標に近づいています。

こころの健康に関する指標におきましては、自殺者数は、人口10万対の自殺者数が16.8人で目標値よりも低い結果となっております。

次に、ライフステージ別の指標についてでございます。

妊娠中やこどもの頃の健康については、低出生体重児は前年と比較し、ほぼ横ばいで、平成22年との比較では多い現状であります。

飲酒は前年と比較し横ばい、喫煙をする妊婦は、減少しております。3歳児のう歯のない割合についても増加し改善しています。

こども世代の健康では、軽度肥満傾向にある学童は、13.2%で目標値の7.0%にはまだ遠い結果となっております。12歳児の一人平均う歯数は1.1本と前年度より増加しています。

19番の脂質異常症については男女とも増加しています。20番の企業登録数は、スマートライフプロジェクトに賛同する企業団体の数となります。中間評価で目標値を修正し、最終年度の目標を100か所としておりますが、令和元年度実績では78か所となっております、順調に目標値に向かっております。

栄養食生活では、野菜の摂取量については増加となっております。

歯・口腔の健康については、40歳代における進行した歯周炎を有する人は割合は減少しておりますが、35～44歳で喪失歯のない人の割合は大きく低下しており、60歳代における進行した歯周炎を有する人も増加しております。

表の右側に、市の主な取組について担当関係課で行っているものを掲載してございます。

第二期けんこう帯広21についての報告は、以上です。

○委員

主な取組のフードバレーマラソンについて、障害があってもなくても出られるものにしてほしい。実施時期についても寒い時期なので、障害がある方は参加しづらい。帯広の障害を持っている人は札幌に行って出場している状況がある。誰もが参加できるような大会にしてほしいです。

○事務局

ご意見としていただきます。

○委員

健康増進法で敷地内禁煙のため、敷地外ではたばこを吸っていたりしているが、こどもと一緒に車の中で吸っているのを見ると、受動喫煙のこどもに対しての配慮はなんとかならないかと感じます。

○事務局

妊娠出産期は特に習慣を変えられやすいタイミングであります。母子健康手帳交付時には説明をしています。市のホームページでも情報提供しています。受動喫煙対策に関する啓発動画を作成し啓発をしています。

○委員

障害をもった人と関わっているが、やめられないものとして、たばこ・携帯だと感じています。

○委員

喫煙と低出生体重児は関連があるといわれているが、妊娠中の人は喫煙が低出生体重児に影響しているということはわかっているのですか。

○委員

妊娠中だけやめているという人や、値段が上がっているということも喫煙率の減少につながっています。

○部会長

たばこ税の税収は増えていますか。

○事務局

数字は持ち合わせておりませんが全国的には減っています。また、喫煙率も全国的には減っています。

○部会長

市役所ではたばこを売ってないですか。

○事務局

売っていません。

○委員

血糖値のコントロール不良者が減らないのは何が原因かつかめていますか。

○事務局

特定健診の間診票の状況等から、早食い、満腹まで食べる、おやつの食べる回数、運動不足などの生活習慣が影響しているのではと考えています。

○委員

以前のアンケートでは野菜の摂取量が少なかったと思うが、野菜摂取量は増えているが、血糖値コントロール不良者は増加している。

○委員

仕事で関わっている人をみると、運動不足で、おやつを食べる人が多い。年齢とともに代謝は落ちるが、食生活は変わらない人が多いです。

○事務局

市の保健指導では、自分で課題を理解し目標を立てて、取り組めた人はデータの改善はしています。本人の意識が重要であるとともに、病院と連携することも重要です。

○委員

がん検診の受診率に関してだが、計画に掲載されている5つのがんは帯広市では患者数が多いということもあるのですか。

○事務局

対策型検診として5大がんの検診です。国で定めて、どの自治体でも行われているがん検診です。国のけんこう日本21も同じ指標で見えています。受診率を向上させていくことで、がんの早期発見、早期治療を目指して体制を整えています。

○委員

帯広市の医師会ではすい臓がんに対して積極的な取組を行っているが、市と連携はしていますか。

○事務局

周知など連携をしています。

○部会長

すい臓がんは、十勝管内は全国平均・全道平均でも高い状況にあります。医療者としては見過ごせない。早期発見できれば、助かる確率が高いです。5つのがんでも減っているのは胃がんくらいです。検診を積極的に受けることが必要です。

○部会長

質問等なければ、質疑を終了いたします。最後にその他として委員の皆さん、事務局から何かございませんか。

○事務局

その他として、9月から開始している健康マイレージ事業についてお知らせします。帯広市健康マイレージ事業とは、スマートフォン用アプリを活用して市民の皆さんに「健康づくり」を実践してもらい、この事業が入り口となり健康づくりに取組むきっかけとなることを目的に、令和2年9月より開始しました。対象は18歳以上の市民または、勤務先が市内の方で、歩数計機能がついたスマートフォンアプリ「スポビー」を活用し、スマートフォンを持ち歩くことで歩数に応じてポイントが貯まり、抽選などで割引券や飲食店の一部割引など特典が得られます。

また、通知機能を活用して健診やがん検診などの周知を行い、健康づくりに関する情報提供を行っていきます。市内企業などには協賛していただくとともに、従業員の方にもこの事業に取り組んでいただくことで、従業員の健康増進や企業イメージ向上につなげていただき、帯広市全体が一体となって「健康なからだとところをつくる」まちづくりを目指してい

ます。11月からは過去1年間健診・検診を受診した方のみが抽選に参加でき、特典が得られる企画を実施することとしております。また現在、健診やがん検診をホームページや専用アプリから申込できるよう準備を進めており受診率向上につなげたいと考えております。

9月末現在で1,500人のダウンロードがあり、今年度の目標値に達しました。また、現在30以上の企業団体から協賛していただいております。

今後も協賛企業団体を増やし、市民にとって魅力ある特典の提供や、協賛企業などにおいても積極的に健康づくりに取り組む人を増やすことができるよう働きかけ、自らの健康を気にかける市民の増加につながるよう努めてまいります。

また、がん対策推進条例の施行に伴い、がんの現状や対策について市民にわかりやすく、伝えるため広報7月号で、がんの死亡の順位やSMRを掲載しています。子宮がん・乳がん・大腸がん・肺がんが多いといった状況を掲載しています。検診受診、ピロリ菌や喫煙などの生活習慣についても記載しています。

○部会長

胃がんの予防にはピロリ菌の除菌が功を奏しています。胃がんの手術は相当減っていて、とても効果があります。ピロリ菌を発見するためには、検診を受けることが必要です。

その他、連絡事項はありますか。

○事務局

次回の健康づくり支援部会は、健康生活支援審議会の実施もありますので、部会長と相談のうえ、改めてご案内させていただきますのでよろしくお願いします。

11月13日には通知しておりますとおり、第八期帯広市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に関わる、第二回の高齢者支援部会・健康づくり支援部会合同部会がありますのでよろしくお願いします。

○部会長

他になれば、本日の議事を終了することとします。皆様お疲れ様でした。